

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	--------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	教育施設課長 井手久武	電話番号	0852-22-5909
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	理科教育設備整備事業
目的	(1) 対象 県立学校の児童・生徒 (2) 意図 充実した理科教育等を受けられるようにする。
事業概要	県立高校及び特別支援学校の児童・生徒が充実した理科教育及び数学教育を受けるために必要な設備を整備する。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 理科備品等の充足率	目標値		14.0	14.2	14.4	14.6	%
		取組目標値						
	式・定義 (現有金額+配分計画)/基準金額	実績値	13.7					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	9,479	10,182
うち一般財源(千円)	4,740	5,091

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

国の経済対策等も活用しながら、順次設備整備を実施してきたが、充足率は依然低水準にとどまっている。
 全体 13.66%
 うち、県立学校 15.09%
 うち、特別支援学校 7.67%

6. 成果があったこと(改善されたこと)

老朽化した設備の更新を行うことにより教育環境を維持しつつ、学習指導要領に対応した設備の新規整備を進めてきたことにより、全体的には充足率が上がってきた。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
 学校により充足率にばらつきがある。特に特別支援学校において理科教育設備の充足率が低い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 毎年、各学校に要望調査を行っているが、予算の制約もあり当該年度に整備可能な範囲に限られる。
- ③原因を解消するための「課題」
 関係課とも調整しながら計画的に整備をしていく。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

学校の特色を生かした教育環境整備を考慮しつつ、関係課と連携し、設備の優先度や必要性を踏まえた効果的かつ効率的な教育環境整備を進めていく。

9. 追加評価(任意記載)

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。